



淀江さんご節

第12回

伝統芸能まつり

とっとり



日南神楽「大蛇退治」

百花繚乱！伝統芸能が米子に集う



高城牛追掛節

伝統芸能功労団体賞知事表彰



鹿野亀井踊り



大和佐美命神社麒麟獅子舞



境港荒神楽太鼓

会場 米子市公会堂 大ホール

開場 12:30 開演 13:30

2021 12.5 (日)

入場無料

終了後動画配信予定

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、状況によって公演イベントを中止・プログラム変更・無観客公演とする場合があります。なお、中止などのお知らせは、「とっとり伝統芸能まつり」ホームページに掲載します。

<http://www.dentou-geinou.net/>



主催／鳥取県（運営委託先 NPO法人 プロデュース・ハレ）

問合せ先／鳥取県地域づくり推進部文化政策課 TEL：0857-26-7843 FAX：0857-26-8108

第19回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2021参加事業、鳥取県民カレッジ連携講座



タイムテーブル

- 13:30~13:45 開会・主催者あいさつ
伝統芸能功労団体賞知事表彰 (高城牛追掛節保存会)
- 13:50~16:10 伝統芸能公演
 - 13:50~14:15 / 境港荒神神楽太鼓
 - 14:20~14:30 / 高城牛追掛節
 - 14:35~14:55 / 大和佐美命神社麒麟獅子舞
休憩 (15分)
 - 15:10~15:25 / 鹿野亀井踊り
 - 15:30~15:40 / 淀江さんご節
 - 15:45~16:10 / 日南神楽「大蛇退治」
- 16:10~16:15 閉会



司会 布野まちこ

現在のレギュラー番組は、毎週土曜日放送の「ヤッホー!」。
その他、結婚式・披露宴、各種イベント、キャラクターショーなどの司会やCM出演など積極的に活動中。
第3~10回「とっとり伝統芸能まつり」及び「中四国文化の集い」の司会を務める。

伝統芸能紹介 (五十音順 ※知事表彰を除く)

たかしろうしおいかげぶし

高城牛追掛節

たかしろうしおいかげぶしほぞんかい
高城牛追掛節保存会(倉吉市)

倉吉市高城地区で伝承されている「高城牛追掛節」の発祥は、大阪城築城の頃にさかのぼり、人夫や牛馬が大きな石や木材を運ぶ重労働に疲れ果てていたところ、音頭風のこの唄が聞こえると元気を取り戻したといわれています。伯耆大山の博労座(ばくろうざ)で牛馬市が開かれた際には、牛売買がまとまったときの祝いや、牛を追って道行くときに歌われました。牛を元気づける唄、祝いの唄、及び牛への思いが込められた牛追掛節は、地区住民に守られ、今でも大切にされています。昭和53(1978)年倉吉市指定無形文化財。

しかのかめいおどり

鹿野亀井踊り

かめいおどりほぞんかい
亀井踊保存会(鳥取市)

亀井踊は、因幡各地に残る最も古い優美な踊り「はねそ踊り」の一つです。江戸時代初期まで鹿野の地を治めた亀井氏にまつわる伝承に由来し、鹿野がはねそ踊りの発祥地ともいわれます。亀井踊保存会は、「亀井踊」の継承・保存と発表、および普及のため発足しました。その後、宝塚歌劇団の指導者の協力を得て、亀井踊にまつわる亀井茲矩(かめいこれのり)と兵主源六(ひょうすげんろく)との闘争を表現した創作太鼓「鹿野亀井太鼓」を発表して以来、町内外の各種イベントにおいて三部構成により踊りと太鼓を披露し、好評を得ています。昭和47(1972)年鳥取県指定無形民俗文化財。

おおわさのみことじんじゃきりんじしまい

大和佐美命神社麒麟獅子舞

おおゆだなしほぞんかい
大湯棚獅子保存会(鳥取市)

麒麟獅子舞は、鳥取藩初代藩主池田光仲(みつなか)が慶安3(1650)年に勧請した日光東照宮の御神霊を祀る鳥取東照宮の祭礼行列に登場したことが始まりとされ、県東部全域に伝わり、現在も100カ所以上で舞われています。令和2(2020)年には「因幡・但馬の麒麟獅子舞」が国重要無形民俗文化財に指定されました。大湯棚地区の獅子舞は、毎年10月の祭礼において大和佐美命神社に奉納されており、鳥取東照宮から直接伝授を受けた貴重な獅子舞であることから、昭和34(1959)年に鳥取県指定無形民俗文化財となり、また、獅子頭は江戸期の優れた彫刻として昭和29(1954)年に鳥取県指定保護文化財となっています。

にちなんかくらおろちたいし

日南神楽「大蛇退治」

にちなんかくらじんこうしゃ
日南神楽神光社(日南町)

日南町の神代神楽は享保12(1727)年、島根県加茂町の貴船神社に伝承される神事舞が神戸上地区に伝えられた後、備中系神楽が導入され、さらに幕末に来村した松江藩士によって備中系と出雲系の神楽を融合した独自の神楽が創り出されました。その後、2度に渡り、脚本・衣装が火災に遭う不運に見舞われたことなどがあり、第二次世界大戦中に社中が消滅しましたが、昭和23(1948)年に再結成し、その後、衰退したものの、昭和50(1975)年に再々結成されました。昭和52(1977)年には、町内有志が古文書、口述書などを整理して、神代神楽の集大成「日南神楽」を編纂し、社名を日南神楽神光社として現在に至っています。平成13(2001)年日南町指定無形民俗文化財。

さかいみなとごうじんかくらだいこ

境港荒神神楽太鼓

さかいみなとごうじんかくらだいこほぞんかい
境港荒神神楽太鼓保存会(境港市)

境港荒神神楽太鼓は、境港市竹内町に伝わる素朴なトンド太鼓の振付を昭和49(1974)年に新たに復活させたもので、トンド太鼓の源が、この地方にかつてあった荒神神楽太鼓といわれています。荒神神楽は永禄9(1566)年、鈴垂城(すずたれじょう)(現松江市美保関町)の亀井能登守安綱(かめいのとのかみやすつな)が境港市高松町でだまし討ちにあい、逃げ延びた家臣、安綱の子とその乳母も竹内村(現在の竹内町)大同寺にて殺されてしまったことから、その後、竹内村に不幸がおきるようになったことを恐れた村人たちは新八幡宮をつくり、盃を祀る行事として舞われたことが始まりといわれています。

よどえさんごぶし

淀江さんご節

よどえさんごぶしほぞんかい
淀江さんご節保存会(米子市)

淀江さんご節は幕末頃に北前船(きたまえぶね)の発達により、九州方面から伝わった民謡がお座敷芸として淀江に定着し、明治から大正にかけて一大ブームを巻き起こしたものです。三味線、太鼓の軽快なリズムに合わせて、左官屋さんが壁を塗り上げる情景をユーモラスに演ずる「壁塗りさんご」、お祝いの席には欠かせない「銭太鼓」、伝統工芸の淀江傘を用いた「傘踊り」を踊ります。港町特有の明るさと躍動感が感じられる唄と踊りには、観る者を自然と笑顔にする力があります。昭和53(1978)年米子市指定無形民俗文化財。

【ご来場の方へのお知らせ】

- ・開催にあたっては、県版感染拡大予防ガイドラインに沿った対応を行います。
- ・感染状況によっては、当日の入場制限を行う場合がありますので、ご了解ください。

新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、入館時に次のことをお願いします

- 発熱やせき、のどの痛みなどの症状がある方はご来場をお控えください。
- マスクを着用してください。
- 手指消毒をしてください。
- 検温・氏名と連絡先の記入にご協力ください。